



留守杯日高賞

3歳牝・ダート1600m M1
4月19日 (日) 水沢競馬場

昨年の優勝馬・フリーダム

GRANDAME—JAPAN2026/JBC協会協賛 HITスタリオンシリーズ

第26回 留守杯日高賞 (M1) (ロゴタイプ賞)

水沢競馬場/3歳牝・ダート1600m

4月19日 (日) 第12競走 18:15発走

2001年、かつてのアラブ系重賞の名を引き継いで設定された3歳牝馬重賞『日高賞』は2004年に『留守杯日高賞』と改称、さらに2010年からは全国の牝馬重賞シリーズ“GRANDAME-JAPAN”の3歳シーズンの一戦に生まれ変わりました。同時にひまわり賞（オークス）、オータムティアラへと続く岩手の3歳牝馬クラシック三冠路線の第一戦でもあります。3歳牝馬重賞化以降の26回をカウントしていますが、日高賞の名称は1969年創設『日高賞典』に遡る岩手競馬で最も伝統あるレース名称のひとつです。

■トリップス(牝3 門別・小野望厩舎)



昨年10月のプリンセスカップを3番人気で優勝。その後は南関東遠征を選び、11月の川崎・ローレル賞でアンジュルナの2着確保、年が明けた前走は浦和・桜花賞でやはりアンジュルナの6着の成績を残す。昨年の盛岡遠征の頃は「当初は身体がしっかりせず短距離を選んでいたが今は問題無い」との小野師のコメントがあった。その後、遠征しつつマイルでも戦えているのはその成長分が確かなものだという事。前走はあくまでも休み明け、ひと叩きされた今回は違う姿を見せてくれるはず。

「前走は相手はもちろん強かったのですが休み明けで息が保たなかった分もあるのでは。一度使って今度は息が保つと思うし、そういう調整で進めてもきました。枠順も手頃だし、いくらかでも馬場が渋ってくればなお良いんだけどね。(小野望調教師)」

■スプリングフォート(牝3 川崎・佐々木仁厩舎)



提供:ホッカイドウ競馬

昨年5月、門別でのデビュー戦は奇しくもトリップスと戦っての同馬の2着。そしてその後も何度かトリップスと刃を交えてきている。結果としてはトリップスが優勢の対戦成績で我々としてはそれが“物差し”になるわけだが、ただどちらにとっても例えばアンジュルナ、例えばリュウノフライトといった世代最上位クラスの強豪達との戦いであって、この2頭の着順着差が力の差ではないはずだ。遠征経験は十分、鞍上にも名手を据えて新たな局面を狙う一戦。

「今年三戦目ですが順調に来ていて状態は悪くない。前に行きたい馬なので枠順も良いね。マイルでの二戦は相手も強かったから対応はできると思う。後は鞍上に任せるよ。(佐々木仁調教師)」

■アドレニコル(牝3 水沢・佐々木由則厩舎)



昨年6月のJRAでのデビュー戦は9着、その直後に岩手に移籍して初戦・2戦目を快勝した。重賞若駒賞を除けば岩手では3着以下がない成績を残してきている点はまず評価できる部分。一方で若駒賞ではセイクリスティーナから5.5秒の差を付けられた8着だったし、この春も3戦1勝2着2回とはいえ3歳B1～B2級でのもの・・・という点も冷静に評価しなくてはならないだろう。昨秋頃よりも堅実に戦えているのは確かで、その成長分をここでどれだけ見せる事ができるか？が今回の注目点だ。

「今回は相手が強力ですが、相手なりに走る馬なので大きく崩れずに走り切ってくれることを期待しています。(佐々木由則調教師)」

■パリスフォンテン(牝3 船橋・玉井昇厩舎)



提供:佐々木 光

12月デビューは今回のメンバーの中で最も遅いが、ここまで4戦で2勝2着2回と実に安定した成績を挙げている。前走のJRA条件交流も6番人気からJRA勢を破ったのがさることながら、地元南関勢の重賞でも健闘している馬たちをも退けたのが見事と言える。そんな好調馬にとっても今回は一気の相手強化に加えて初の長距離輸送は乗り越えるべき課題になるが、この条件・この舞台でどれだけやれるか？今後のこの馬の活躍ぶりを計る上で重要な一戦になるだろう。

「ここまでより相手が強くなりますが、チャレンジするなら牝馬同士のここへということでの参戦。輸送も前回の浦和では落ち着きがあったからクリアしてくれるのでは。小回りなら距離も対応してくれると思っています。(玉井昇調教師)」

■ファーマドール(牝3 大井・大宮和也厩舎)



デビューは5月1日の門別新馬戦。8戦を経て勝ち星を挙げることができないままに大井に移籍した本馬だったが、その初戦で待望の初勝利を挙げると3戦目で2勝目を、その勢いに乗って挑んだ11月の佐賀・フォーマルハウト賞では2着と登り調子の走りを見せていた。その後は大きめの着順が目立つとはいえ、佐賀ではあのサキドリトッケン相手にあわやの2着だったのだから本馬の力量がここで見劣ると思えない。今回のメンバー中最多のキャリア15戦、その経験を活かしきって戦う。

「ここまであまり無理に使ってきていないので疲れは感じませんし、暖かくなって体調も良くなっている印象。近走はちょっと結果に繋がっていませんが自分の走りができればもっと…と思いますし、小回りコースも脚質的に決して悪くないのではないのでしょうか。(大宮和也調教師)」

■セイクリスティーナ(牝3 水沢・佐々木由則厩舎)



ここまで9戦6勝、うち重賞は5勝。唯一馬券圏内を外した東京2歳優駿牝馬でも5着に食い込んだ。昨年の岩手の2歳最優秀馬にして最優秀牝馬、まさに女王だ。3度経験している他地区馬との戦いで勝ったのは芝のジュニアグランプリのみだが、3着だったプリンセスカップは各地の重賞上位クラスが揃ったハイレベルの戦いだったし東京2歳優駿牝馬もいわずもがな。全国区でも通用する力を見せてきている事は改めて注目しておきたい。前半戦の目標に据えたこの戦いで改めて自身の力量を見せつける。

「強めの追い切りは先週済ませて直前は整える程度でしたがこれで十分、態勢は整いました。馬場もこの天気なら極端な高速にはならないでしょうし、力を出せる状態で挑めるでしょう。(佐々木由則調教師)」

■マイダスタッチ(牝3 盛岡・櫻田浩樹厩舎)



デビューから初勝利までは3戦を要したが、勝ち星を挙げた後は白星先行でこそないものの大きく崩れることなくキャリアを重ねてきた。3度挑んだ重賞でも、金杯・スプリングカップはディオニスに、あやめ賞ではセイクリスティーナに阻まれたもののこの馬なりに差を詰めている。今のこの馬なら、少なくとも地元勢の中では上位の力量、上位の勢いがあると考えていいだろう。これまで以上に相手強化となる今回だが、ここでも目を惹く走りができたなら、この先に向けての手応えがより大きくなるはずだ。

「去年より落ち着きが出ていて気性面の成長感がありますね。状態面も悪くなく来ていると思う。距離は、マイルは少し長いかもしれませんが、前走のような形でひとつでも上を狙っていきたいですね。(櫻田浩樹調教師)」

■アップタウン(牝3 船橋・矢野義幸厩舎)

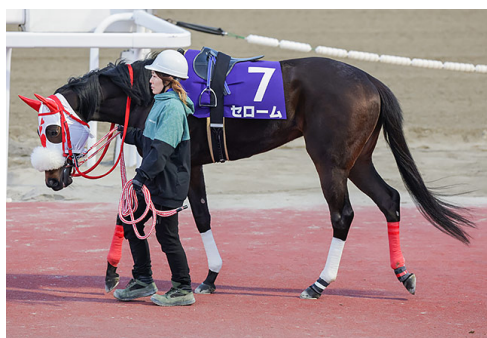


提供:ホッカイドウ競馬

今回の遠征馬は5頭中4頭が門別でデビューしているが本馬もその1頭で、そしてトリップスと並んで新馬勝ちを収めた実績が光る。その後は勝ち星が無く来ているが、例えばエンドレスソロウやメイクセンス、ココキュンキュンといった重賞級と渡りあってきたゆえの結果なのは考慮が必要だろう。実際、1月のブルーバードカップでは紅一点の牝馬ながらあと一歩で掲示板という所まで食い込んできている。桜花賞にしてもトリップスを追い上げる僅差の7着なら今回のメンバーの中でひけを取る力量とは思えない。着順の数字だけでこの馬の評価を決めてしまうのは早計だ。

「良い脚は持っているがあまり長く使えなくて、それで勝ち星に繋がらないという印象だね。距離は問題無いと思うし必ずひと脚は使ってくれるから展開が向いてくれれば。(矢野義幸調教師)」

■セローム(牝3 水沢・菅原右吉厩舎)



2歳デビューは7月と今回戦うメンバーの中では遅い方。しかし2戦目で初勝利を挙げたあとは重賞で4度の3着を確保、世代の中でも堅実と言える存在になっている。もちろん、3着といってもセイクリスティーナやディオニスといった相手にはっきりとした差を付けられているのは確か。しかしそれにしても強豪相手に真っ向挑んだ末に得た結果なのは間違いないし、特にここ2戦は昨年の秋頃以上に積極的に立ち回っている事は覚えておきたいところだ。

「地元勢の中では前走くらいがんばってくれるが遠征勢が入ると楽な競馬にはならないでしょう。ただ折り合いに難がある馬ではないし、内の馬たちの直後あたりで流れに乗ってくれば・・・と思っています(菅原右吉調教師)」

■キララカ(牝3 水沢・菅原勲厩舎)



デビューから8戦目までは非常に安定した戦績を残してきた本馬だが、その後、本格的に重賞路線に挑むようになった昨秋以降は苦戦が続く。1400mではやや距離不足、マイルが手頃だが展開待ちの面がある・・・という所が相手関係だけでなくこの間の馬場傾向とももうひとつ噛み合わなかったと言うべきか。ただ、そんな前提を置いて眺めてもこの春の走りはまだこの馬らしさが見えてこない印象。先行馬が揃い流れも速くなっていい交流戦はこの馬にはおあつらえ向きだけに、ここまでと違った走りを期待しよう。

「この春の走りからするとこの馬としてはもう少し良くなる余地があるのでしょうか。これから徐々に変わってくると思います。(菅原勲調教師)」

■クインオメガ(牝3 盛岡・齋藤雄一厩舎)



重賞はこれが二度目の挑戦。初めてタイトルに挑んだ前走・あやめ賞はセイクリスティーナを脅かすことこそできなかったまでも、直線の伸び脚はもう少しで馬券圏内、いや連対にも手が届きそうな4着と見せ場は十分に作っていた点には注目しておきたい。

ここまでの着順は一進一退だが重賞級のライバルとの差は徐々に縮めてきてもいる。前走以上に相手が揃った今回だが、前走以上に差を詰めてきてても不思議は無い。

「前走は自分の競馬をして4着まで食い込んでくれた。この春は状態が良いし気持ち面でも落ち着きが出てきている。それが前走の結果にも繋がっているのでは。良い感じできていると思いますよ。（齋藤雄一調教師）」

■イタズラバガ(牝3 水沢・菅原勲厩舎)



2歳時はデビュー勝ちこそならなかったものの2戦目でしっかり初勝利。その後も重賞で2着3回・3着1回と主役の座を狙える位置で戦ってきた。しかし3歳になったこの春はここまでの2戦が6着・11着と苦戦が続き、昨年の粘り強い走りを見せる事ができずにいる。要因を探すとすれば、芝で好走している馬だけに春当初のパワーを求めるコース状態がこの馬向きではなかったとは言えるだろう。その頃よりは軽めになった馬場で浮上のきっかけを掴みたい。

「調教や追い切りの時計は変わらないし悪くもない。状態自体も悪くないと感じるのですが。ここも自分の走りをしてどこまでやれるか。（菅原勲調教師）」